

# ヨツバヒヨドリの危機(2016.11.23)

森林植生の変化により、シダに侵食される



左下：カンスゲの仲間、まだらに陽が射す林床などに多い。

右下：枯れて茶色になったのはすべてイワヒメワラビ。中に混じる緑色はコバノイシカグマ。

上部：幼木はウリハダカエデ。

\* いずれも鹿が喰わない植物。つい数年前まではヨツバヒヨドリの群落があった場所である。

びわ湖パレイスキー場のアサギマダラ・マーキングポイント。ロープウェイ山頂駅直下の急斜面。



上：茶色の部分はイワヒメワラビ。ほとんどが冬には枯れる。新芽は山菜として食べられるというが、鹿は食べない。

中：カンスゲの仲間。冬になっても枯れない。非常に強い植物で、除草は困難である。

下：緑色のシダはコバノイシカグマ、冬にも枯れない。右下・左上はカンスゲの仲間。樹木はオオイタヤメイゲツやウリハダカエデの幼木。

上：日の当たる斜面はほとんどイワヒメワラビとコバノイシカグマに覆われている。

中：まばらに陽の射す林床にはカンスゲの仲間が侵入してヨツバヒヨドリの居場所を奪っている。

下：ウリハダカエデの幼木。オオバアサガラも同じような環境に群落を作り、他の植物の侵入を許さない。両種とも鹿が食べないのでますます増える。



百里が岳・2006.5

チシマザサは鹿の冬季の餌である。



チシマザサは鹿に齧られて絶えていった。



齧られたあと脇芽をだすが、それも齧られる。



上：百里ガ岳近くの林床。下：比叡山・2007年頃の植生



比叡山は天然記念物の鳥類繁殖地で、林床は笹に覆われていた。笹を食草とする昆虫は非常に多い。昆虫で子育てをする鳥類の繁殖地となっていたのであるが、21世紀に入ってからは鹿が増え、植生が変わってしまった。

1980年代までは、山頂付近やスキー場などに見られたヨツバヒヨドリ群落には沢山のアサギマダラが乱舞していたらしい。回峰行の行者が通る道を手入れする信者のYさんは、道を指さして『オオバコが見当たらんやろう。鹿が根こそぎ喰うてしもうて、なんもかんもわやや』と、鹿の食害を説明する。



左上 3 枚は、2007 年の八丁平の植生である。チシマザサに花が咲いているのが分るだろうか。

左下からは、現在の八丁平の植生であり、笹がすべてシダに置き換わっている。シダの種類は多く、同定に自信はないが、イワヒメワラビが大半を占め、コバノイシカグマが混じり、その他の種類のシダも場所により混じる。シダ以外の植物を寄せ付けない寡占状態で、植物相はますます貧弱になっている。昆虫も野鳥も少なくなっているのは、そのせいであろう。



近畿には珍しい高層湿原の八丁平の湿原には、戦前はミズゴケが栽培されていたという。ミズゴケ栽培には水位調整が欠かせない。その結果として湿原は維持されていたと考えるのは飛躍し過ぎだろうか。

21世紀の初めまで、八丁平の自然を護ろうという市民運動が激しく続けられ、林道は湿原を避けて付けられることになったが、水位調整の里山的思想は活動家たちには受け入れがたいものだったらしく、結果的に陸地化は進行して、まず笹原に変わり、鹿の食害で笹が枯れるとシダ類が侵入してきて、今では見渡す限りの一面のシダばかりの高層湿原になってしまった。耳の老化で鳥声録音が取れなくなって久しいが、かつては NHK テレビで、日本一の生息密度と紹介された八丁平のウグイスたちは、まだいるのだろうか。ウグイスなどに托卵するホトトギスの仲間四種も、とても賑やかだった 20 世紀も終わりの頃の、野鳥の夜明けのコーラスが懐かしい。

比良山系・木戸峠—比良岳



イワヒメワラビは紅葉とともに枯れていくらしい。10月下旬はまだ緑色が多かった。まばらに陽が射す緩斜面の林床は、イワヒメワラビ、コバノイシカグマ、カンスゲの仲間などに広く覆われており、その他の鹿の喰う植物の侵入を許さない。

林床の茶色の部分はイワヒメワラビの枯れ葉である。数年前まではこのあたりの林域にはナツツバキ・リョウブなどの樹木が結構多かったのであるが、両種とも初夏の頃まで樹皮が柔らかく剥ぎやすいため、鹿に齧られてほとんどが枯れて絶えてしまった。

## イワヒメワラビ



## イワヒメワラビ

### コバノイシカグマ科に属するシダ植物

東北では稀で、関東以西の暖地に多い。ブナ帯から人里近く、人家周りまで出現する。あまり乾燥しない日向地が好きで、いわゆるパイオニア的な性格を持ち、例えば森林の伐採跡などに素早く侵入して繁茂するが、木が茂ってくると見えなくなる。(Wikipedia より引用)

## コバノイシカグマ



## コバノイシカグマ

### コバノイシカグマ科に属するシダ植物

日本では東北地方中部以南に広く分布する。山地の林の下に生じ、しばしば群生する。多少乾いた森林内か、あるいは半ば日当たりのよい場所に生育する。(Wikipedia より引用)